「平和と人権」市民ネットワーク情報　N021-7
事務局発行(℡ 0557-45-1182)　http://peaceito.moo.jp　2021.7/4

第３回

「変貌する自衛隊」学習会開催

◆6 月 24 日市役所展望ギャラリーで、第 3 回「変貌する自衛隊」学習会を開きました。参加者 6 名で少し寂しかったですが、これにめげずに、自前の学習会を地道に積み重ねていきたいです。今回は三好が、スライド(前半 20 枚を添付)で自衛隊の現状を説明し、その後意見交換しました。要点を紹介します。

△　△　△

(1)中国脅威論をめぐって

伊藤

アメリカが中国を敵視するのはなぜか。「中国が大きくなって力を発揮しだした。それが、アメリカにとって恐怖になっている」と言われるのですが、それが本当なのかどうか。実態として中国がアメリカにとって実際の脅威になっているのか。ソ連がなくなったから、アメリカの防衛産業がそういうのを作ってくれ、と言っているのか。それとも、技術的な問題なんかで、アメリカの絶対優位が揺らいできているのかどうか。

三好

基本的には覇権争い。西太平洋の主導権をとるのはアメリカであったわけだけれど、それを脅かす存在として中国が現われてきた。歴史的に繰り返されてきた、それまでの覇権国に対して新しい勢力が登場してきた、それをつぶす構図。ただ、情報技術、AI を含めた先端技術の面では、アメリカも脅威に感じているのではないか

(2)軍事化の動き

戸田

日米の軍事的一体化が進んでいるけど、そういうのを国民はどう考えているのか。南西諸島では基地が出来ちゃって、この間ミサイルが運び込まれた。一方で憲法 9 条に関わる動きがあるし。土地利用規制法なんかも、今外国人が持っているのは 7 筆しかないらしいですね。国民がもっと勉強して反対していかないと。

三好

コロナとオリンピックの陰で現在進行形の問題について報道も少ない。事実上の空母化とか、長射程のミサイルとか、国会でもっと予算審議しているのだから追求するのかな、と思っていたのですけど、ほとんどないですよね。ほとんど議論にならず通ってしまう。何百億円の金が。国民の関心もそういう問題に向いていない気がします。

伊藤

コロナの問題で、事業をやっているところは相当大変ですよね。だから人のことなんか考えられない、政治のことも考えられない。そういう状態だと思う。そういう状態を作り出しておけばその陰で何をやったってわからないわけですよね。こういう状態に置いておけば、国民は文句を言わない。

(3)9 条の意義

斉藤

自衛隊をどういうふうにみんなに話していくか。一番の切り口は、「戦争放棄をした憲法 9 条から見てどうなのだ」という説得の仕方をしないと、相手の土俵のなかで自衛隊を論じる、という気が僕なんかはする。NO40 のスライドで「自衛官募集業務の公然化」と書かれている。僕が組合の役員をやっていた頃、庁舎に自衛官募集のポスターを貼るんですね。いまでも貼るし、横断幕みたいなのも張る。伊東から自衛隊に入ったというと、入隊式を大会議室でやったりする。按針祭で自衛隊や米の海兵隊を呼んだりするわけ。それに対する抵抗というのは今や皆無に等しい。やりたい放題。「憲法 9 条に自衛隊は違反していますよ」という思想は、僕らの中にも自治体の中にもないから、野放しになっちゃう。そういう小さなことに対する抵抗を積み重ねていかないとダメじゃないかな。…今コロナで自衛隊の大規模接種でワクチンを打っている。そうすると自衛隊反対なんていうのは非国民だ、という印象でみられる。そういうのはおかしいじゃないかという世論を作っていかないと。

伊藤

国民向けの自衛隊の顔というのは災害派遣とか、皆さんに役立っている自衛隊、という宣伝が行き渡っている。その裏でこういうことがどんどん進んでいる。これで憲法の中に自衛隊という言葉が入っちゃったら、今までの災害派遣なんてやらなくなると思う。自衛隊の本質は違うということをわれわれが言うしかない。

三好

斉藤さんが言われるように、自衛隊が市民社会の中でいろんな形で登場して来る。それに対する抵抗がどんどん薄らいでくる。「いや違うんじゃない」という感覚は、やはり 9 条があるから起こる。そういう感覚が弱くなるのと並行して、9 条そのものを変えてしまえ、という動きになっている。もし、なくなったらどういうことになるか、われわれも想像力を働かせないといけないし、外に対して訴えていく必要がある、と思います。

(4)主体的な外交を

伊藤泰子

自衛隊が日本の自衛隊ではなくて、米軍の付属機関というか。向こうはそう思っているだろうし、こっちもそんなふうな感覚でいるのかなという感じがする。自主的決定はどうなっているのかという実態。安倍・菅の時代に、わずかな期間に見えない形でやりたい方向を作ってきている。気が付いたらそういう方向になっている。自衛隊の在り方にもはっきりと出ている。

武田

日本の自衛隊が変化し、中国の側から見れば、日本とアメリカがべったりするのは脅威だと思うのです。集団的自衛権も認められているので。日本が独立国として、主体的に発言し、行動できれば、中国も日本を一つの国として認め、国対国同士で話し合いができていくのではないでしょうか。

三好

アメリカは日本も含め中国包囲網を作って、中国を封じ込めようとしている。しかし、中国とパイプが作られなければ、いくら包囲網を作ってもいつか矛盾・衝突がありうる。根本的には当事者を含めた、中国を含めた恒常的な…

伊藤

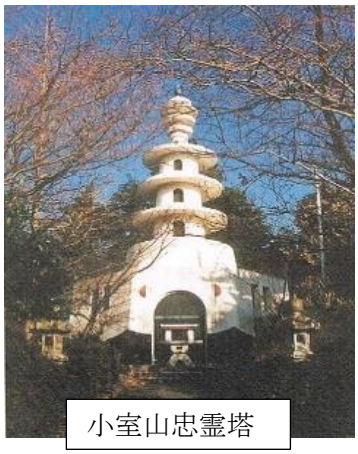
北東アジア共同体といった機構を作らないとダメだと思う。

戸田

中国と日本は隣の国だし、この際、「脱アメリカ」。東北アジア共同体。敵の懐に飛び込む。いいですね。　　(以上)

静岡県母親大会・分科会の様子

①　伊東市の戦跡巡り


小室山忠霊塔

心配した雨も降らず、車６台に１５人が分乗して、宇佐美駅を１０時に出発し、加藤好一先生に伊東市の戦跡を詳しく説明していただきました。「波切地蔵」設置の意味、「なぜこの時期に溺死したの？」行蓮寺にある慰霊碑から「なぜ米軍は漁船を銃撃したか」と問われた。小室山の慰霊塔の内部に入らせていただき、遺品や資料を見せていただいた。

忠霊塔を背景に記念撮影

加藤先生は、現職の頃から「事実から考えさせる」教育をすすめてこられ、見学の私達にも「なぜ」を問いかけながら説明してくださった。知らなかったことがたくさんあり、改めて戦争の悲惨さ、平和の尊さを考えさせられた有意義な２時間余でした。

②　八幡野メガソーラーとジオパーク

八幡野コミセンに集合した分科会参加者、男性２名を含む１８名は、現地視察に向かいました。車で 5 分ほどの現地は、工事用道路を造るため竹林を伐採したが、今はブルーシートが掛けられ、2 年余り全く何もせず放置されたままの現地。現場は事務所の建物も既に取り壊され、事業者は何を考えているのかと首をかしげる状況でした。

コミュニティセンターの会議室に戻り、市と事業者に対して、2 つの裁判で闘っている原告代表の佐藤みつ子さんから話を聞きました。裁判官に見てもらうために「裁判を支援する会」が制作した DVD を見ながら、現場の状況説明を聞きました。

全国で起こっている「メガソーラー問題」それに関わる裁判など、うまくいっているところはまずないそうです。しかし、伊豆高原の場合は、まだ途中ではありますが、展望が見えつつあるところまで来ています。今回、経過と取り組みを話されましたが、強調していたのは、古くからの住民と移住者が、揺るがず一緒に取り組み、市長、市議会にも強力に働きかけ、伊東市議会は全会一致で「メガソーラー建設反対」決議をしており、市長も反対を表明しなければ、選挙に勝てない状況を作ってきたことなどが丁寧に話されました。

同様な問題に直面している函南の方の参加もあり、住民運動の在りようなどを考える上でも大切な問題提起となったように思います。

来年の母親大会では、さらに進展した状況が聞けるのではないかと思います。

子どもたちを放射能から守る伊豆の会

堀川夫妻の話を聞く

6月26日　於て、ひぐらし会館(文責　三好康昭)

被災体験

堀川文夫さんが生まれ故郷の浪江町に戻って塾を始めたのは30歳のとき。チェルノブイリ原発事故後、もし福島原発で事故が起きたらこうやって逃げようと家族で話していた。3月11日、瓦や壁が崩れ、食器が飛び出し散乱。奥さんは飼い犬をかばったとき、腰を痛めた。原発の崩壊を恐れ、すぐに遠方に避難することを決意。夜を徹して奥さんの実家大宮に向かった。その後、ネットで見つけた富士市の借家に移った。避難中に奥さんは鬱を発症。何もしないが、洗濯だけは狂ったようにする。1年経って中古住宅を買い、塾を再開した。愛犬の「桃」がガンに罹り亡くなる。奥さんは「桃」からの手紙に託して、避難生活の様子を綴り始めた。塾のかつての教え子たちが絵を書いてくれ絵本(「手紙」学友会教育研究所刊行)にして出版した。社交ダンスも再開した。今、絵本を朗読しながら、被災体験を語り伝える活動をしている。

堀川夫妻の訴え

地震列島になぜ原発を作るのか。浪江町は今解体の真最中。私たちの家も取り壊され、フレコンパックに詰められた。フレコンバックにはそれぞれの家の宝物が詰まっている。廃棄物ではない。更地になっても固定資産税を払わされる。自治体や国は汚染された土地の買い取りには応じない。理不尽な生命の軽視。

出来るだけ多くの人に知ってほしい。「万が一」は起こること。真実を知ることが、行動に大きな違いを生む。

お　知　ら　せ

第４回「変貌する自衛隊」学習会 (最終回)

７月２２日(木・祝) 14:00～　、市役所展望ギャラリー

テキスト…九条の会ブックレット「菅政権の成立と改憲問題の新局面」(400円/冊　当日販売します)

みんなで歌おう　伊東市民病院の今と明日を考える会　第９回の集い

７月２４日(土) 10:00～(開場 9:30)、「ひぐらし会館」3F ホール(38-1511)

入場無料、問合せ先　090-2927-7376(浦島)　　チラシを参照

※　通信８月号はお休みにします。